

# 広報 えびな



市の木つげ



市の花さつき

発行・海老名市役所・海老名市国分155/編集・秘書広報課/電話・31-2111(代)/〒243-04

毎月1日・15日発行

### ◇ 大字紹介 ◇

柏ヶ谷 柏谷が柏谷、柏谷  
になって柏ヶ谷に  
なったというが、定かではない。

## 今年も国際青年の年

今年も「国際青年の年」(国際障害者年「国際障害者年」に続くもので、昭和五十四年に開催された第三十四回国連総会で定められました。今、地球上には食糧危機、核戦争の恐怖、麻薬汚染などいろいろな問題があります。これらを解決し、人類の平和と明るい未来を築くには、青年の活動が必要です。そこで青年たちの積極的な社会への参加を求めようと「国際青年の年」が定められました。青年たちの社会への参加といえ、市内でもさまざまな所で活躍している青年たちがいます。また、青年時代に大変苦労なされて現在を迎えている先輩もいます。本紙ではこれらの方々の中から何人かの人に「青年」をテーマにお話を聞いてみました。



助産婦五十二年、その間とりあげた赤ちゃん  
は千人を超えるという富山治代さん(助産 73  
歳)は、「知人の病院に手伝いに行ったのがきっかけ  
で助産婦の資格を昭和七年に取りました。戦前は  
満州に渡ったことも。当地では二十二年二月に  
開業。昭和三十四年に開所した母子健康センタ  
ーで最初の赤ちゃんを取り上げた。現在は、妊  
産婦の訪問指導などをしてる。学問に興味を  
うれしかったことは「自分が取り上げた子が  
成人式に訪ねてくれたりするところね。いまの  
時代に産年だったらの質問に「もっと  
広げたい」の答えは「いまの若い人たちが  
ちにもいい」そう。



戦前は満州開拓戦後は高座開拓をして市議会  
議員として活躍した海谷久右衛門さん(東柏ヶ  
谷四丁目、72歳)は、「山形県の農家の二男坊。それで満州へ。昭  
和十年に満州にわたり、農業経営は順調にいっ  
ていたが、太平洋戦争の影響を受け、奥さん、  
子供四人と共に  
四月に脱  
出。その後、  
二十二年月  
に柏ヶ谷の海  
軍高座工し  
うの跡地に入植した。  
一生の中で何度か苦境にたつたがへたこれ  
ることはなかった。  
二十か国を歩いた海外通。その体験から得  
たもの若い人へは「ぜひ外国語を勉強して、外  
国の人と交流してほしい」と願っている。



去年十月  
県の「青年  
のつばさ」  
でシカゴ  
ール、マレ  
シアを訪  
ね、彼地の  
青年たちと交流してきた上河内の宮台明美さ  
ん(会社員、22歳)は、「

「初めての海外旅行でしたが、同じ東南ア  
シア地区のせいか、それほど違和感はない  
でした。二週間の滞在で現地家庭へ  
の泊り込み、青年指導者との交流などいろ  
いろな体験をした。海老名青年会館で茶道を  
習ったり、テニスを楽しんだりするごく普通  
のお嬢さん、それが進められて、海外派遣に  
応募。その体験を元に「これからはもっと積  
極的に活動して多くの人を知りたい」



市内のサッカークラブの草分け「海老名キ  
ッカーズ」の創立当時から参加。いまは試合  
に、後輩の指導に活躍する国分の金子清治さ  
ん(会社員、28歳)は、「

「サッカー」を始めたのが、小学校五年の時  
「サッカー」は、自然に親し  
む、自己開発をする、人と交わるの三つを目  
標としている。いまは乳児院や老人ホームの  
ボランティアをしたり、詩や自分の思ってい  
ることを書いて手製の本を作ったりしてい  
る。

## 青年の夢を 育てよう



児童養護施設中心学園  
で十四年、老  
人ホーム「中  
心荘」で十六  
年仕事をし  
ている浦野正次さん(特別養護老人ホーム「中心  
荘」園長、上今泉四丁目、58歳)は、「

「中心会会長に引継がれて中心学園の仕事  
を始めた。中心学園では、子供たちが浦野  
さんを通じて暮ってくれた。そんな時「真剣  
に仕事をしよった。人を育てることの重大  
さを感じた」とい  
いま、今年六月に開所する泉系老人のため  
の施設「第二中心荘」の建設に忙しい。  
もし、今の時代に青年であったら「世界を  
一つの単位として社会福祉的な活動をしたい」  
そして、若者たちに「若い時にお年寄りや恵ま  
れない人に関心をもち、思いを望んでいる。

## あなたも参加を



将来の計  
画は「福祉  
関係の短期  
大学で勉強  
して、老人  
ホームの寮  
母さんにな  
りたい」

カール・スカウト歴七年、有馬高二年の内  
藤都江(ささ)さん(本郷、17歳)は、「  
小学校四年の時、積極性がないのでカール  
・スカウトに入って活動したら、と母に勧め  
られて入りました。スカウトは、自然に親し  
む、自己開発をする、人と交わるの三つを目  
標としている。いまは乳児院や老人ホームの  
ボランティアをしたり、詩や自分の思ってい  
ることを書いて手製の本を作ったりしてい  
る。

企画は青年の手で  
市で「国際青年の年」の催し  
市では「国際青年の年」を記念  
して、青年たちの手による催しを  
開こうと計画しています。時期は  
五月ごろを予定していますが、内  
容については参加する青年たちに  
企画してもらおうと考えていま  
す。  
高校生から二十代までの個人ま  
たは、グループで参加希望の方は  
市教育委員会社会教育課青少年係  
(内4)まで連絡してください。

市民相談室	市役所一階案内隣り (電話33・四一〇直通)
一般	日曜・祝日を除く、 毎日午前8時半～ 午後5時(土曜は正午)
法律	6日水・20日水 午前10時～午後4時
登記	14日(木)午後1時～4時
人権	8日(金)午後1時～4時
年金	19日(火)午前10時～午後9時
宅地建物	16日(土)午前9時～正午
行政	22日(金)午後1時～4時
社会福祉協議会	市立総合福祉会館 (31・四二二)
高齢者の職業	日曜・祝 日を除く 毎日午前9時～午後4時(土 曜は正午)▽対象：おむね 65歳以上の方▽内容：職業 ・生活相談
結婚	毎週金曜日(祝日 を除く)午前9時～ 午後3時
ボランティア	毎週火曜 日午前9時～午後4時▽対 象：ボランティア活動やそ の派遣を希望される方
教育・就学	2月2・9 日(土)午前9時～11時、教 育委員会指導室▽申し込 み制 電話で同室(内4)
青少年	日曜・祝日を除 く毎日午前9時～ 午後4時(土曜は午前11 時)市立図書館▽対象：20 歳未満の本人、または保護者 ▽問い合わせ：青少年相談所 (32・1010)





# 2月の健康あんない

予防保健課 <31・2111(代)> 厚木保健所海老名支所 <32・7911>

**赤ちゃんと**  
平良芳美ちゃん  
命華 九か月  
平野明彦・かおり夫妻の次女

**安野悠斗くん**  
安野悠斗くん  
拍ヶ谷 八か月  
安野重夫・美世夫妻の長男

**紺野志保ちゃん**  
紺野志保ちゃん  
国分 八か月  
紺野志保・もり夫妻の長女

**おじいちゃん**  
おじいちゃん  
おじいちゃん  
おじいちゃん

乳幼児の健診と相談

事業名	月日	受付時間	会場	対象	内容	申し込み・問い合わせ
3か月児健康診査	2月28日(木)	13:00-14:00	厚木保健所海老名支所	S59年10月生まれの人	診察、身長・体重測定	直接会場へ。問い合わせは海老名支所
7か月児健康相談	2月22日(金)	9:30-10:00	健康センター	S59年6月生まれの人	育児相談、赤ちゃん体操及び家族計画指導	予防保健課
1歳6か月児健康診査	2月21日(木)	13:00-14:00	厚木保健所海老名支所	S58年8月生まれの人	診察、歯科検診、身長・体重測定	" "
3歳児健康診査	2月15日(金)	13:00-14:00	"	S57年1月生まれの人	診察、歯科検診、身長・体重測定	海老名支所
離乳食講習会	2月1日(金)	9:30-10:00	"	3-6か月児	離乳食の作り方・与え方の注意	申し込み・問い合わせは"
幼児歯科相談	2月20日(木)	13:00-14:30	"	1歳7か月-2歳11か月児	歯のみがき方(ハブラシ持参のこと)	" "
子供の整形外科相談	2月7日(木)	13:00-14:00	"	18歳未満で特に心配のある人	身体障害のある乳幼児の早期発見、治療と療育指導	" "
お産前健康診査	対象は生後10か月からお産日前日までの乳児	指定された医療機関	あらかじめお問い合わせのうえお受けください。	受診用紙は母子手帳別冊についています。	別冊のない方は予防保健課へ	"

\*健診または相談を受ける方は必ず母子手帳を持参してください。

健康診査(成人病検診) - 集団							
胃がん検診	2月6日(水)	8:30-11:30	健康センター	40歳以上の人、人員70人	胃部エックス線間接撮影	料金 500円	電話で予防保健課へ
	2月14日(木)	"	農協南支所	"	"	"	"
	3月8日(金)	"	健康センター	"	"	"	"
乳がん検診	10:00-12:00	健康センター	30歳以上の女性	問診と触診	料金 600円	"	"
	3月14日(木)	13:00-15:00	健康センター	午前・午後各100人	問診、細胞診、内診	料金 400円	"

\*各医療機関でも乳がん・子宮がん検診、一般診査が受けられます。詳しくは9月配布の「保健衛生のお知らせ」をご覧ください。「保健衛生のお知らせ」がない場合は、予防保健課へ。



かぜにご注意!!

かぜがはやり始めています。外出から帰った時、鼻をすすり、手を洗いをしなさい。また、鼻をかんだ時の手をすすり、とまじりにあてた手を洗って下さい。かぜは十分注意をしないと、

### 健康相談

**2月12日(火) 午前9時半-10時** 市健康センター(市健康センター) 対象 成人(マコト)健康全般について  
の相談。マコト申し込み。直接会場へ。お問い合わせは予防保健課。内線。

### 父親教室

2月16日(土) 午前9時半-10時半 市健康センター(市健康センター) 対象 父(マコト)健康全般について  
の相談。マコト申し込み。直接会場へ。お問い合わせは予防保健課。内線。

### 献血にご協力を

2月7日(水) 海老名駅前口前(2月21日) 生協大谷店(主催) 大谷地区健康推進委員会(協賛) 献血。午前10時-午後1時。3時

### 犬は正しい飼おう

犬は正しい飼おう。犬の飼育は、飼い主の責任が重い。犬の健康と安全のために、正しい飼育方法を守り、犬と人間との関係を築いていこう。



# 2月の文化会館

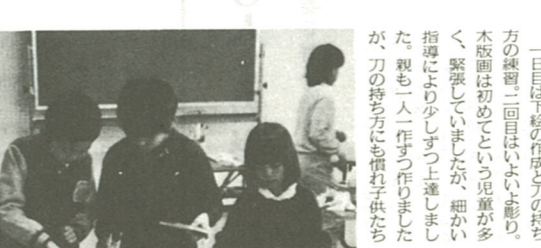
日(曜)	内容	開演	終演	入場方法	主催者				
11日	子供のための音楽会	13:30	16:00	300円	音楽教育研究所 (31) 1579				
17日	音楽仲間祭典「六つの音楽の輪」	13:00	15:30	自由	六つの音楽の輪実行委員会 (31) 9787				
24日	映画鑑賞会	10:00	11:30	12:20	13:50	14:30	16:00	未定	家族をいっしょに見る会 (32) 3816

○問い合わせは主催者に。 ○関係者だけの催しは掲載していません。 ○主催者の都合で変更になる場合もあります。 ○今月の休館日は5・12・19・26日です。 市文化会館 (上郷476の2) ☎32-3231

## プレイ・ガイド

### 第6回海老名寄席(特選名人会)

出演 古今亭志ん朝、柳家小三治、林家こん平ほか  
大好評前売中  
3月17日(日) 午後2時開演、市文化会館。入場料はA席1,500円、B席1,000円(全席指定) 団体割引あり。前売りで売切れた場合は、当日券はありません。  
◇主催 海老名市、市文化会館事業協会 (☎32・3231)



親子の手紙作り  
親子の手紙作りは、親子の絆を深め、愛情を伝える大切な行事です。市文化会館では、親子の手紙作り教室を開催します。手紙の書き方、折り紙、はさみ、のりなどを使い、親子で手紙を作ります。親子の絆を深め、愛情を伝える大切な行事です。市文化会館では、親子の手紙作り教室を開催します。手紙の書き方、折り紙、はさみ、のりなどを使い、親子で手紙を作ります。

# 人間性高揚の場に



市民館だより  
市民館だより。市民館は、市民の文化活動を支援し、人間性を高めるための場を提供しています。市民館には、様々な講座や教室があり、市民の文化活動を支援し、人間性を高めるための場を提供しています。市民館には、様々な講座や教室があり、市民の文化活動を支援し、人間性を高めるための場を提供しています。

## 明日の親のための教室

月日	学習課題	講師
2/6(木)	親とは何か(父親の条件・母親の条件)	教育長 高柳 舜
2/13(木)	新しい家庭の生活設計(豊かな家庭生活への計画)	日本銀行元副調査役 村上 淳男
2/20(木)	妊娠と栄養・病気	増田産婦人科医院副院長 増田 恵一
2/27(木)	命を考える	市予防保健課保健婦
3/6(木)	女性の生き方	婦人問題評論家 武田 京子
3/13(木)	健康な生活	佐藤クリニック院長 佐藤 中
3/20(木)	家庭とは	教育評論家 浜田 三雄

お一人でも参加可。申し込むは2月21日までに、社会教育課(内線)へ。会場 市立中央公民館 時間 午後7時18時半

## 住まいを考える

月日	学習内容
1/28	風土と住まい、建物の欧米との比較
2/4	住宅にかかわる法律
2/18	住まいの設計(敷地が生かせる家作り)
3/4	住まいの設計(生活行為を考えた間取り)
3/11	住まいの設計(室内環境・採光・照明など)

# 公民館だより

市民館だより。市民館は、市民の文化活動を支援し、人間性を高めるための場を提供しています。市民館には、様々な講座や教室があり、市民の文化活動を支援し、人間性を高めるための場を提供しています。

明日の親のための教室。明日の親のための教室は、親の役割と責任について学び、子育てのヒントを得るための教室です。親子の絆を深め、愛情を伝える大切な行事です。市文化会館では、親子の手紙作り教室を開催します。

# みんなの児童館

### 創作びなを作ろう

2月の日程

27日	公民館台見児童館	7日
6日	大谷見児童館	1日
15日	大谷見児童館	1日
20日	大谷見児童館	1日
28日	大谷見児童館	1日
9日	大谷見児童館	5日
16日	大谷見児童館	2日
23日	大谷見児童館	2日
30日	大谷見児童館	2日
6日	大谷見児童館	1日
13日	大谷見児童館	1日
20日	大谷見児童館	1日
27日	大谷見児童館	1日

# スポーツ

## もちつき大会

浜田町自治会で恒例に

「昔ながらのもちつき大会に参加し、会員相互の親睦を図ろう」と浜田町自治会(瀬口代吉会長、会員別々)が十二月十三日、三塚公園でもちつき大会を開いた。同大会は三日目、もちつきが初めてという人もベテラン役員に混じってきねを振った。きねが打つ音が会場に響く。同日、用意されたもちもちが六十三。あんなにもきねもちとして会員に配られた。初めてきねを持った会員は



もちつきを通じて、笑いと会員の親睦が

「もちつきは初めての我が、体力でなくこつである」と語った。とてもしきをかいた」と語った。瀬口会長も「この大会が終わり、やっと正月という感じになる。毎年、会員の約八〇〇名が何らかの形で参加してくれており、地域のコミュニティが図られている」と語っていた。

## 安全の幸福袋

交通事故防止運動で配布

年末年始の交通事故防止のため市・座間警察署・市交通安全対策協議会によって運転者などの街頭指導が十二月二十六日午後四時半から行われた。

海老名駅入口から園分駅信号の間二丁目、飲酒運転取り締まりホルダー、チラシ、ステッカーなど啓発用品を入れた「交通安全幸福袋」を用意し、通行する自家用車の一時停止を求め、啓発用品の配布と交通安全意識の指導を行った。同日、二十三日の役員によって配布された幸福袋は十五

交通安全を訴えて幸福袋を...



運動に参加した役員は「寒さも厳しかったが、こうした運動が実って交通事故も正月を連ねられれば」と語っていた。

## 成人への第一歩

手をつなく親の会で見つ

知恵連れの講習を持つ子の親で構成されている海老名市手をつなく親の会(根本芳枝会長、会員86人)で、成人を祝う会とクリスマスおたのしみ会が十二月二十三日、市総合福祉会館で開かれた。

成人を祝う会は今回が二回目。根本会長は「成人を迎えた喜びを同じ気持ちを持つ親と子で祝い、新たな門出とし」と語った。新人を迎えた五人を代表して、下今泉の荒川真由美さんが親親へ感謝の言葉を力強く述べ、会場からの拍手で成人への第一歩を踏み出した。

式典のあとは、ボランティア活動を紹介している、わかば青年学級(興野一弘代表)と海老名マッシュグループ(山田健雄代表)による出し物や子供たちの自慢なと楽しいパーティーが行われた。



「今年最後の贈り物のり越えて迎えた成人の喜びは大きい」

## しめ飾りに挑戦

国分寺台児童館で「民芸教室」

「お正月のしめ飾りは僕らの手で作る」と、十二月二十六日、国分寺台児童館で開かれた「民芸教室」では、市内の小学生とその母親九人がしめ飾り作りには挑戦した。



僕が作ったしめ飾りでお正月

「自作のお飾りで新年を迎えよう」と十二月二十日から五日間、市西部福祉館で市内の六十歳以上の老人三十人を対象に、老人趣味の教室「農村民芸」が行われた。

## 老人の農村民芸

自作のお飾りで新年を

「自作のお飾りで新年を迎えよう」と十二月二十日から五日間、市西部福祉館で市内の六十歳以上の老人三十人を対象に、老人趣味の教室「農村民芸」が行われた。



このコーナーは、住所・氏名を明記し、海老名市役所秘書広報課へ。

## 駅前到大時計を

海老名駅に駅前広場から見える時計があれば良いと思います。駅で設置する意思があれば駅前広場の鉄塔(市の広告塔「光の翼」)に設置すればよいと思います。今は時計を各自が持っています。が、広場などに時計があると便利だと思います。小田急・相模鉄道に働きかけていただきたい。(国分寺台三丁目 佐々木寛)



駅前到大時計を、との要望が...

「提案のとおり海老名駅(前)に時計があれば便利かと思われま。時計の設置は、駅舎であれば鉄道事業者が、広告塔や広場であれば市で行うことになりま。ご指摘のよ様に、駅前に

に時計を」ということであれば鉄道事業者ともよく協議し、最良の場所を選定し設置したいと思います。なお、市の広告塔「光の翼」に設置する場合は、本来広告塔は時計の設置のため建てられたものではなため、構造上、調査研究する必要があります。

大谷の柳井(なるとい)は宅地造成がされるまで、集落から隔離して、大谷の秘蔵ともいわれ、チベットなどとい入もいた。ここにあって早川の五社神社前へ抜ける急坂が「柳井の坂」で、自転車を押し上げるのも思が切れる程の急勾(こう)配で、戦後になっても急坂(はな)悪路の代名詞となっていたのだから昔はもっとひどかったものなろう。

明治のころ、大谷の山谷に石井勇次郎という人がいた(石井清照さんの曾祖父)。動き着て、益も正月もななく動き、みんなの休む日には人目につかないように、遠くの畑へ行って仕事をた。天保四年(一八三三)生まれの屋(がけ)下へまわると、いつ

も残っているかと思つて、天びん桶の先で持ち上げようとしたら、その音がむくむくと動き出し、生々しい息を「うう」とはいた。吠と見えたのは、窪(くぼ)地

この人が四十二の時このころから、明治二年か、九年そのころなら益(た)があくという俗説があつて、迷信をわかつていても



置き忘れたものか、吠(かます)が伏せてあった。温つて色がまわつているので、乾かしておこすと、足の甲で裏返そうとしたが、水を吸ったかのような感触で重くて動かない。中に堆(たい)肥で

に伏せていた大蟻(おおい)だったので、夢中で逃げ帰つたが、高熱でそのまま寝こんで、半月も頭が上

注(い)かますとは、わらわらへるを二つに折り、左右の両へりを縄で縫い合せて袋、穀類や肥料、石灰などを入れるのに使つた。(小島直司「大谷」から採録されたもの)